

業務管理とデータ利活用がイノベーションに与える影響：

国内卸売業の事例研究

藤井秀道（九州大学）

鷲尾哲（株式会社情報通信総合研究所）

篠崎彰彦（九州大学）

本研究では、国内卸売業において業務管理とデータ利活用の取り組みがどのようにイノベーション行動の取り組みに影響を与えているかを、事業所を対象としたアンケート調査データを用いて明らかにする。分析対象サンプルは2018年度に実施したアンケート調査に基づいており、有効回答数は2,971事業所である。取り扱う商品の特性を明示的に考慮するために、分析対象グループを(1)繊維・衣料品、(2)飲食料品、(3)建築材料、(4)機械器具、(5)各種商品・その他に分類した。加えてイノベーション行動についても、製品やサービスの開発・改善取り組みであるプロダクトイノベーションと、業務プロセスの開発・改善取り組みであるプロセスイノベーションに分けて、関係性を分析した。本分析より、業務管理とデータ利活用の取り組みがイノベーション行動に与える影響は、5つのグループ別に大きく異なっていると同時に、プロダクトイノベーションとプロセスイノベーションに影響を与える要因も異なっていることが明らかとなった。特に、新商品・サービスの開発にデータ分析結果を活用している事業所ほど、プロダクトイノベーションが活発に実施されている点に加えて、プロセスイノベーションについても活発に実施されている点が明らかとなった。一方で、繊維・衣料品卸売業では他グループとは異なり、業務管理の取り組みがイノベーションの実施に影響を与えるとする結果は観測されなかった。

キーワード

イノベーション、業務管理、データ利活用、卸売業

Keyword

Innovation, Operations management, Data utilization, Wholesale